

経営比較分析表（平成30年度決算）

宮城県加美郡保健医療福祉行政事務組合 公立加美病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	8	-	下訓	救輪
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
-	7,804	第2種該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

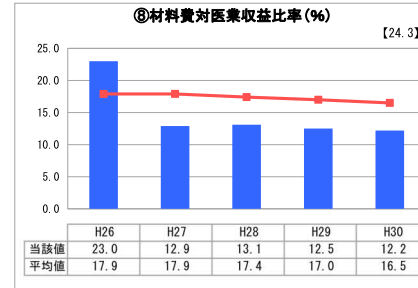
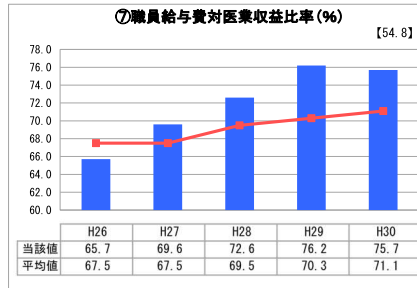
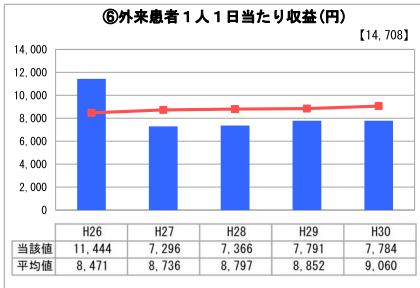
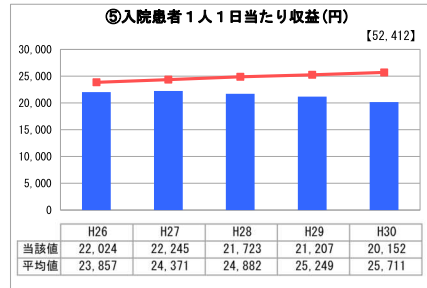
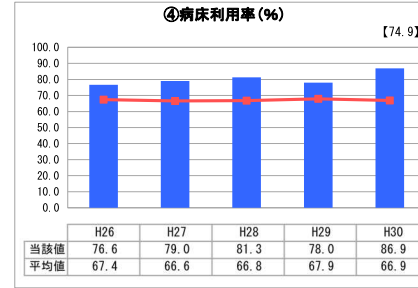
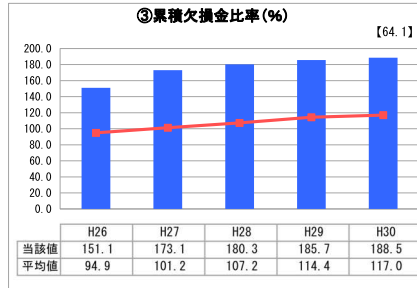
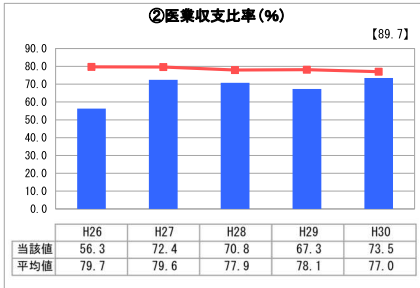
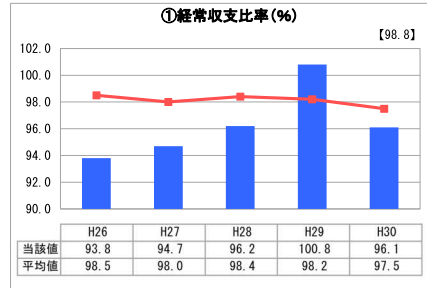
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
40	50	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	90
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
39	50	89

グラフ凡例

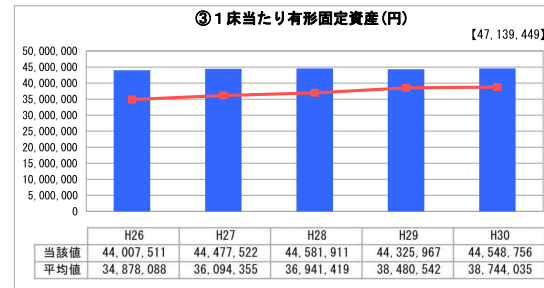
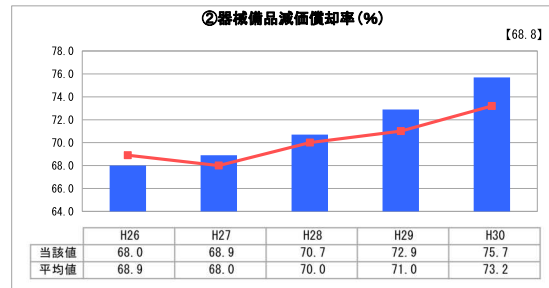
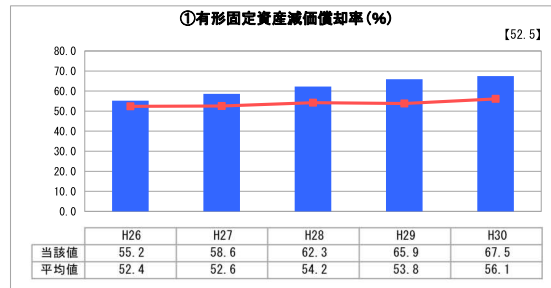
- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)

【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

当院は、地域で唯一入院設備のある医療機関として、大崎市民病院等の基幹病院からの転院の受け入れ先として、また、急性期の診断能力を備える医療機関として、急性期、回復期、慢性期、終末期と全てのステージを担っている。
また、在宅診療や小児医療などきめ細かな診療体制に取り組むとともに、企業健診、産業医、学校医等地域の保健衛生活動にも携わっている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率が100%を下回っている。昨年は資金の不足に対応するため応急的に構成町へ負担金をお願いしたが、今年度は資金に余裕があったため負担金が減少したことが結果に表れている。一方、医業収益に関しては病床利用率に表れている通り入院患者の増によって上向き傾向にある。
また、利用率が向上しているものの、1人1日あたりの収益が類似病院平均よりも低いので、増収策を模索中である。

2. 老朽化の状況について

平成14年7月の開業から17年が経過し、医療機器についてはほぼ全ての更新が終了している。建物本体に関し差し当たり大きな修繕等の予定はないが、引き続き注視していく。前回課題としていた変電設備については、専門家の意見を聞き早急な更新の必要がないと判断された。
空調設備については、やはり老朽化が進んでおり、近い将来での計画的更新が予測される。

全体総括

地域における当院の必要性は理解されているものの、運営に関しては、サービスの向上や新診療科目の要望、経営に関する経済性や採算性が求められており、かつ人口が減少している状況にもあり、安定的な健全経営を行う事は困難になっている。
今後、この地域に必要な医療を精査し、本院の役割を再度構築する。また、激変する診療報酬制度を精査し、外来機能や診療科目の精査・病床機能の精査を行い適正な診療報酬の増額を目指し、早急に調査研究を行う。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。